

令和 6 年度 教員地域貢献活動支援事業（学長裁量事業）

地域実践研究 成果報告書

本事業について次のとおり成果を報告します。また、当該事業の経費執行については、規程等を遵守し適正に使用しました。

1 研究課題名

「リベラルアーツとしての都市経験」の学際的探究——「まち」を豊かに経験するリテラシーについて考える

2 研究代表者

氏名・所属・職位	角田 隆一 国際教養学部 准教授
----------	------------------

3 連携相手先

組織名	TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT
-----	-------------------------------------

4 研究体制

氏名・所属・職位	有馬貴之 国際教養学部 准教授
----------	-----------------

※連携相手先以外で、本事業に協力した・参画した機関等（該当がある場合記載）

組織名	NPO 法人横濱金澤シティガイド協会
-----	--------------------

5 この研究活動の概要

地域文化の活力の減退や無個性化・均質化が叫ばれて久しい。このような現代都市の重要課題に、金沢区も例にもれない。そこに住まう／訪れる私たちが「文化的に豊かに生きる」ことはいかにして可能だろうか。本研究は、この切実な地域課題の解決の糸口を「リベラルアーツ」の観点を重視した都市空間経験に求め、そういった経験を切り拓き、そのリテラシーを若年層に育成していくための写真のプロジェクトを探究する。社会学を中心としつつ、本年度は観光地理学、都市計画論、アート文化実践の専門家と分野横断的にコラボレーションしながら、そのあるべき金沢八景の新しい経験モードの形を考察する。

6 この研究を実施する目的

2000 年代以降の現代都市文化は、とりわけ人文社会系の都市論において、たとえば「脱舞台化」・「無印都市」・「ファスト風土」などといった言葉とともに、地域文化の活力の減退や無個性化・均質化が叫ばれ、悲観的な評価でもってきわめて消極的に語られてきた。そうはいっても、私たちはつねにすでに、その現代都市空間の中で生を営んでいる。そこに住まう／訪れる人々が「文化的に豊かに生きる」ことはどのように可能だろうか。このような現代都市研究における最重要課題に、この金沢区という都市空間も

例にもれない。2つの大学キャンパスをかかえるキャンパスタウンであるにもかかわらず、他大学の街に比べても「大学生」の活気に溢れているとはいいいがたい。自宅通学の学生は大学の用事が終わると“他に楽しむものがない”かのようにすぐに駅に直行して帰ってしまう。これは二つの点で金沢区の魅力の文化的リソースを十分に活かしきれていない。一方で、金沢区の文化の「現代な魅力の見極めと提案」の不十分さ、他方で、受け止める人々の側の「楽しむ（経験）のためのリテラシー」も不十分である。これらがともに問題状況を温存させてしまっている。

このような切実な地域課題の認識に基づき、本研究は、この解決の糸口を「リベラルアーツ」の観点を重視した都市空間経験に求め、そういった経験を切り拓き、そのリテラシーを若年層に育成していくための、新しい金沢八景の概念／イメージを書き換える写真のプロジェクトを探究する。社会学を中心としつつ、本年度は観光地理学、都市計画論、アート文化実践の専門家と分野横断的にコラボレーションしながら、そのあるべき金沢八景の新しい経験モードの形を考察する。

7 実施した内容（スケジュールと具体的な活動、実績、成果）

2024年4月

- ・連携研究者有馬貴之研究室ならびに連携先 TPR と打ち合わせ
- ・黄金町バザール 2024 へのフィールドワーク

5月

- ・NPO 法人横濱金澤シティガイド協会との実地調査
- ・横浜市立大学中西正彦研究室（都市計画）との実地調査
- ・瀬戸神社おわたり神事のフィールドワーク

6～8月

- ・金沢八景に関する史料のリサーチ・写真 ZINE 作品制作検討会実施
- ・横浜街歩きのフィールドワーク

9月

- ・横濱金澤シティガイド協会とミーティング（1）

10月

- ・横濱金澤シティガイド協会から地域情報リサーチならびにミーティング（2）
- ・地域住民へのインタビュー（1）
- ・地域飲食店のリサーチ
- ・角田隆一研究室・有馬貴之研究室・中西正彦研究室との金沢八景研究合同中間発表会

11月

- ・地域住民へのインタビュー（2）
- ・地域住民へのインタビュー（3）

12月～2025年1月

- ・リサーチをもとにした写真 ZINE 作品制作
- ・まち歩きワークショップ準備

2月

- ・地域住民と区役所職員などを招いての角田隆一研究室・有馬貴之研究室・中西正彦研究室との金沢八景研究合同成果発表会
- ・大学生・卒業生を対象としたまち歩きワークショップ実施（1）

3月

- ・大学生・卒業生を対象としたまち歩きワークショップ実施（2）

8 この研究により得られた効果と自己評価

キャンパスタウンでもある金沢区の文化的魅力向上という地域課題に対し、その解決の糸口を「リベラルアーツ」の観点を重視した都市空間経験を切り拓き、そのリテラシーを若年層に育成していけるような、新しい金沢八景の概念／イメージを書き換えるフォト・プロジェクトの実践を様々な観点から試みた。すなわち、①学生と地域住民やアーティストと連携しながら、②社会学×リベラルアーツ的な知識×金沢区の大きな二つの地域資源（豊かで時間的厚みをもつ歴史文化的リソース・豊かで美的な景観を備える自然文化的リソース）の現代的アップデートという発信内容の方針と具体的内容の見極め、さらには、③これを ZINE という紙媒体の形で写真作品制作と多くの区民や区役所の方々に向けた発表会と意見交換会を達成した。

これは、キャンパスタウンの担い手である大学生（横浜市大）が、この制作をしながら、金沢区のことに関心・興味を抱く契機を大きく拓き、そして地域のことを調べ、知識を得、地域の魅力を考え、それを他者に伝えていくメディアの制作と発表を実践したということになる。これらは、大学生なりの金沢区の文化の「【現代】な魅力の見極めと【提案】」＝作品化、さらにはこの作業途上での「楽しむ（経験）のための【リテラシー】」の養成という点に関し、大きな成果をあげた。それとともに、金沢区に関するリサーチ（横浜金澤シティガイド協会や金沢区役所など）、地域住民へのインタビュー、地域住民と大学生共同でのワークショップの開催を通じて、大学生と地域住民との交流の機会を数多く創出した。この交流機会とネットワークは、今年度限りのものではなく次年度以降も持続的に引き継がれていく見通しとなっている。

他にも、本研究課題の連携研究者である有馬貴之研究室での人流調査（「大学周辺という空間における非日常性を考える——大学生の金沢区の利用状況から」2024）において、横浜市立大学・関東学院大学の学生がともに大学と駅の行き来ばかりで金沢区をほとんど回遊していないことがデータとして実証された。このことは本研究課題の意義をさらに強調するものとなった。

9 今後の課題と展開

本研究課題の成果により、解決へのさらなるステップアップに向けた糸口を二点つかむことができた。それが、A. このプロジェクト実践をゼミ生をこえて広げた横浜市立大学の学生、関東学院大学の学生にも開いていくことである。キャンパスタウンとして活性化していくには、横浜市立大学・関東学院大学両大学の学生のコラボレーションが必要である。次年度は、まずはワークショップ参加という範囲内で両大学を積極的に結びつけていく試みを実践したい。次年度から申請者は関東学院大学で非常勤講師として大人数の授業を受け持つので、そこでの勧誘や両大学の人間関係ネットワークを活用する。続いて、B. まち歩きを促進するワークショップを開催すること。これは昨年度の研究成果で大学生が金沢区を

あんまり回遊しないことが実証されたことを受けている。まち歩きは都市の見方や経験の組み直しを生む（吉見俊哉 2020）。地域に関する歴史や知識が真に“自分のもの”となって愛着を醸成していくにはまち歩きが有効である。このまち歩きを促進するような仕掛けがふんだんに盛り込まれるような「まち歩きワークショップ・カード」の内容と形を探究し、実際にワークショップを複数回開催しながらその洗練化につとめたい。これは、大学生当事者たちにとっての「訪れたい、住みたい、住み続けたいまち」の実現化の試みでもあり、キャンパスタウンとして持続性のある活性化が見込まれる。

10 本事業に関する研究発表、メディア掲載等（予定を含む）

- ・「金沢八景に潜む「時」の「層」を写真であぶり出す 横浜市立大学角田隆一ゼミナール写真部」（広報よこはま金沢区版、2025 年 5 月）
- ・角田隆一「まち歩き写真」（近森高明・工藤保則編『無印都市の社会学 2』法律文化社、2025 年近刊）
- ・角田隆一「「まち」を豊かに経験するリテラシーについて考える——金沢八景をめぐるフォト・プロジェクトを中心に」（2024 年度横浜市金沢区研究会 横浜市立大学×金沢区 合同ミーティング 2025 年 3 月 24 日）
- ・角田隆一「蓄積された都市の文化を学び、今後の郊外地域を能動的に考える」（横浜市立大学アドバンストエクステンション講座「金沢区の都市・社会・文化を知る——これからの郊外地域の生活とコミュニティ」 2024 年 11 月 26 日）
- ・「市大と金沢区が情報交換 初の合同ミーティング」（『タウンニュース』金沢区・磯子区版、2025 年 5 月 1 日）
- ・金沢八景フォト・プロジェクト・「みんなの金沢八景プロジェクト」チーム発表「金沢区まちづかい研究」（横浜市金沢区自助連絡協議会第 3 回総会、2025 年 3 月 9 日）

令和6年度 教員地域貢献活動支援事業（学長裁量事業）
収支報告書

課題名	「リベラルアーツとしての都市経験」の学際的探究——「まち」を豊かに経験するリテラシーについて考える
事業区分	—
研究代表者	国際教養学部 准教授 角田 隆一
連携相手先	TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT
実施期間	2024/06/01～2025/03/31

収入

項目	財源	予算額	決算額	差額
助成金	運営交付金	500,000		500,000
合計		500,000	0	500,000

支出

項目	支出額	使途
消耗品・備品費	499,736	書籍
業務委託費	0	
報償謝金費	0	
人件費	0	
旅費	0	
印刷製本費	0	
その他	220	文献複写
合計	499,956	

支出残高	44
------	----